

## ヒロシマ（陸自海田基地）からのイラク派兵を許さない！

湯 浅 一 郎

沖繩のヘリ事故機の岩国帰還や香田さんの

救出と第4次派兵に反対する行動に追われた  
昨○四年十一月の末、イラクへの第5次派兵  
が東部方面隊をとばして名古屋を中心とした  
中部方面隊になり、その中に広島県海田基  
地が含まれる公算が強いということがわかっ  
てきた。そして一二月九、一〇日と政府が、  
イラクへの自衛隊派兵の期間を一年延長し、  
あわせて専守防衛の原則を取り払い、海外派  
遣を本務に組み込もうとする新たな「防衛計  
画の大綱」を策定したことで、事態は決定的  
となった。

被爆六〇年であり、かつNPT再検討会議  
が開催され、核兵器廃絶への声を飛躍させる  
べき○五年二月、敷地の一部が広島市内にあ  
る海田基地から自衛隊がイラクに派兵された。  
派兵された自衛隊の中に、ヒロシマの部隊が  
含まれていることをイラクの人びとが知った  
とき、ヒロシマへの失望が広がる。これでは  
ヒロシマの世界的な発信の力を著しく弱め、  
信頼感を損なう。ヒロシマからのイラク派兵  
は何としても止めたいと様々な取り組みを行  
ない、精一杯の抵抗はしたが、国政レベルで、  
一見「合法的」に行なわれているものを止め

ることは至難の業であった。

まず一月二五日、ピースリンクとして基  
地に申し入れをした。しかし、重視したのは  
市民運動の行動を基本としつつも、少しでも  
大きな枠での取り組みを作ることであった。  
そこで進めたことは、広島において被爆者、  
宗教者、大学人、さらに市民運動や労働運動  
の代表的人格である四七人の呼びかけ人が集  
まり、「ヒロシマ（海田基地）からのイラク派  
兵を許さない！被爆地ヒロシマ・ピースルズ  
声明」を出し、声明賛同者の名において、思  
想、信条、組織の枠を越えた幅広い県民の結  
集を呼びかけるという方式である。数回の呼  
びかけ人会議を経て、海田現地でのできるだ  
け大きな人間の鎖行動をすることとなった。  
それからは、ピースリンクとピースルズ声明  
実行委員会を使い分けながら、全体として世  
論を作るために全力を傾注した。

年明け早々の一月六日には、第3次イラク  
復興業務支援隊の一員として、海田から二人  
がイラクに向かった。私たちは、初めてその  
ような部隊が先に出ていくことを知ったが、  
本隊の作戦行動をスムーズに推進するため現  
地での調整などを行なう部隊で、半年ごとの

任務で、合わせて約一〇〇名で構成される。

半分は、東京、半分は当該部隊、つまり中部  
方面隊からかき集めたもので、実質的にイラ  
ク派兵部隊の一員である。

その日、私たちは、ピースルズ声明実とし  
て中止の申し入れを行なった。一月一五、一  
六日には、名古屋での全国交流合宿の後、守  
山基地での基地包囲行動に参加し、各地から  
の申し入れの手交にも立ち会った。

一月二二日、広島では一千人規模の市民の  
手で海田基地を包囲する行動に立ち上がった。  
市民が、基地を包囲し、憲法九条手ぬぐいを  
持ち合って、自衛隊の広島からのイラク派兵  
に反対であることを示すアピール行動である。  
その日は、風もない晴天に恵まれ、一四時、  
JR海田市駅そばの「ひまわり大橋」には約  
千人が集まり、簡単な出発式のあと、基地に  
向けてデモ。正門前の川に架かった橋の上に  
宣伝カーを止めて、自衛隊へのアピールを開  
始。まずは全国被爆教職員の会会長の空辰男  
さん、広島YWCA会長の宮田喜久代さん、  
そして広島修道大学教授の岡本三夫さんと、  
共同代表三人が順次アピール。二五名が参加  
してくれた韓国の全教組テグ支部支部長のべ

ク・シンホさんが力強いアピール。最後に被爆者のメッセージを若者が読み上げた。

この間、デモ参加者は、南北に分かれて基地のフェンスに沿って並んでいた。今治の阿部さんが作ってくれた「憲法九条手ぬぐい」を隣同士で持ち合い、九条による基地包囲を約一キロにわたって実現した。申入書を手交し、あわせて、北海道、東京、名古屋、大阪からの申入書も提出した。北海道からは、一年前に1次派兵反対で使った横断幕が送られ、包囲行動で使うことができた。最後に人間の鎖を作り、シュプレヒコールをくり返し、ウェイブにも取り組んだ。

これは海田での集会としては、過去最大規模のものになった。また憲法九条手ぬぐいを使つての基地包囲行動は、全国で初めてのことかもしれない(?)。憲法改悪の動きが急を告げている中で、九条こそが自衛官の命を守ってきたし、これからも守っていくはずだということ、自衛官に向けてアピールできた意味は大きい。この日、声明への賛同者数は一八四名になった。

そして本隊の第一派の壮行式が二月二日、海田基地で行なわれ、出雲、日本原なども合わせて一〇名が13旅団から派兵された。前日から大寒波が来て、日本列島は雪模様。広島市内、特に山側では二〇センチ近くの雪が積もった。おかげで、共同代表の岡本、空さんが来られないということもなり、申し入れは河合さんにしてもらった。

さらに一二日に二派、二〇日に三派の派兵があつたが、ピースリンクは、両日ともに広島市内の本通りで街頭でのビラまきをした。

この間、ヒロシマからのイラク派兵に反対しようとの訴えが中心だったが、そこでは、自衛隊が海外にいて、作戦行動をとっていることを普通のことにしてはならない」との主張に力点を置いて訴えた。さらに、「社会的雰囲気息苦しくありませんか。年に三万四千人の自殺者、三五〇万人(広島県の人口は二八〇万人)の完全失業者が出ていても、政府は予算を投入することもなく、何一つ対策を講じない。その一方で、一九九〇年以降の軍事費は、他のサミット国は全て減少しているのに、日本だけが増え続けている。首相は靖国参拝を続け、教育基本法の改悪を進めようとしている。これは、『戦争ができる国』になろうとしていることと表裏一体の関係にあるのではないでしようか」といった話を市民に語りかけることに力点を置いている。

昨年の呉からの「おおすみ」派兵の時は、もう少し盛り上がりがあったかもしれない。小数づつが何派にも分かれて出るので、焦点を合わせにくい面はある。それにしても、本体が初めて広島から出て行くことに対して、市民が、自分の思いとしてかけ参じるという気持ちが薄れていることは深刻である。それぞれ忙しい事情はわかるが、自分の生き方の中に根付いている度合いが問われている気がする。一月三〇日の原爆法廷の連続講座で、被

爆者の坪井さんが、「できる範囲ではなく、少しでも一歩踏み出してという姿勢がほしい」と言われていたことが、とても重要だと実感している。ただ、名古屋を中心とした各地の連携は、一定の力を発揮したと思う。そして私たちと松山、高松との連携の兆しも見えてきている。

第6次も、ほぼ同じ規模で中四国が関与することは避けられない情勢にあるので、五月までに準備をしていきたいと考えている。

(ゆあさ・いちろう、ピースリンク広島・呉・岩国)

大河原 礼三 著

## 平和憲法と軍事力廃止

——提言・考察・資料—— A5判 84 ページ

### 【内容の一部】

提言「軍事力廃止条約を求める」／軍事力廃止の思想／軍隊は民衆を守らない——「集団自決」などを考える——／沖縄米軍の犯罪・事故／憲法・自衛権・平和的生存権／国際刑事裁判所／【資料】日本の防衛費、世界の軍事費、6 大国の通常兵器輸出額、世界の兵器製造企業、武器輸出三原則の見直しなど。

発売：沖縄タイムス社出版部 定価：800 円